

昨今、宮崎では口蹄疫に始まり鶏インフルエンザと日本経済にも大きな影響を与えました。私たちは『となりのトマト生産組合』を設立し平成22年度食料自給率向上・産地再生緊急対策交付金関係事業を起し、農業の活性化及び宮崎県のトマト栽培の差別化を考え、特殊フィルム(アイメック)栽培を取り入れました。

安心 ・ 安全 ・ 安定

安心な環境
安全な生産
安定な収穫

アイメック技術採用

アイメックとはハイドロゲルからなる膜、“**ハイドロメンブラン**”によって作物と養液を隔離して栽培する技術です。

“**ハイドロメンブラン**”は、養液から水と栄養を吸収するものの反対側には放出しないために作物側の膜表面は完全に乾いています。そこで、作物は膜中の水と養分を吸収しようとして膨大な数の毛根を発生させて、“**ハイドロメンブラン**”の表面に張り付きます。更に、浸透圧効果によって膜中の養液の吸収力を高めるために糖分、アミノ酸などを大量に作り出すために高栄養化します。

アイメックのもう一つの特徴は病原菌、ウイルスなどを通さない“**ハイドロメンブラン**”によってたとえ養液が汚染されても作物が病気になるらず、農薬の使用が大幅に削減できます。



ハウス内は常に清潔にスリッパに履き替え作業します。



高糖度フルーツトマト

各種栽培方法によるトマトの栄養成分の比較

栄養成分	アイメック	水耕栽培	土耕栽培
糖度 (g/100g)	7.6 - 12.0	4.0	4.0
グルタミン酸ナトリウム (mg/100g)	408 - 478	157	172
GABA(mg/100g)	124 - 157	28	28
リコピン (mg/100g)	10.8 - 13.0	3.0	4.3

GABA (γ-アミノ酪酸): 鎮静作用、降圧作用

リコピン: 抗酸化作用、美白作用



お問い合わせ: わそう農園

宮崎県児湯郡都農町大字川北 2076-1

TEL: 0983-25-4149 / FAX: 0983-25-4169

農園ご紹介



となりのトマト生産組合

①和爽農園 3,045 m²

児湯郡都農町大字川北 2076-1

0983-25-4149 代表：宮崎和弘

反あたり 8,000 本定植

計 24,000 本

年間平均収穫量：25～30 t 予定

品種：フルティカ（メイン品種）

その他（試験品種 1,000 本）



②サウスランドパーム 2,175 m²

児湯郡都農町大字川北 2134-1

0983-25-4146 代表：黒木幸徳

反あたり 8,000 本定植

計 16,000 本

年間平均収穫量：15～20 t 予定

品種：フルティカ（メイン品種）

その他（試験品種 1,000 本）



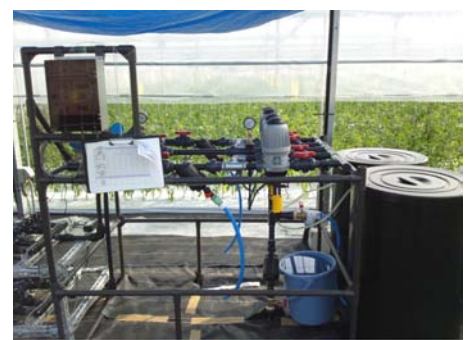
◎糖度が上がっているマーク
グリーンベースがくっきり！



◎グラウンドシートにより土壌から隔離して、ドリフト被害防止。
ハウス内はいつも清潔に徹底管理



◎水分ストレスにより極限に絞られたトマト



◎自動養液システム
土耕・水耕のように大量の水、溶液は流さず作物に必要な最低限の溶液で栽培

新しい栽培技術(アイメック栽培)

肥料養液から水と栄養分のみを吸収する特殊な膜(ハイδροメンブラン)の上で作物を育てたところ、

1)ハイδροメンブラン(以下アイメックフィルム)は細菌、ウイルスを通さないために、養液が腐っても作物は病気にかかりにくくなる。

2)アイメックフィルムは養液から吸収した水と栄養分を作物側に放出しないため、作物はアイメックフィルム中の水分と栄養分を自分で吸収しようとして膨大な数の根毛を発生させ、アイメックフィルム表面に付着させる、更に糖分、アミノ酸などを大量に合成し浸透圧を高め、アイメックフィルムからの水分と栄養分の吸収を促進する、などの現象が起こる。

アイメックフィルムの効用

1)作物の病気を防ぐために、水耕栽培のように大量の養液を循環、殺菌する必要がなく、アイメックフィルムを濡らすだけの少量の養液で良く、コストが掛からないと同時に減農薬による安全性が担保される。

2)アイメックフィルムによって作物の本来持っている水分及び栄養分吸収能力が活性化されるのみならず、栄養素の合成能力も高められた結果、作物は高栄養化する。